

佐保川小学校学習支援・レポ

校庭の樹木の自然工作

小島 武雄

秋の佐保川小学校学習支援を報告します。

11月1日(金)5~6時間目。

4年生 2クラス、30名と32名の参加です。

春に続いての4年生、校庭での自然観察。今回はいつもの月曜に替えて金曜日の午後になり、自然教室のメンバーが集まりにくく、千載さんと、有元さんに協力いただき、6名で行いました。

前日の下見で、秋の樹木の状況確認を行いました。当日予報では午後から雨模様と思われ、教室での自然工作に備えて準備も行いました。

当日は、午後から雨が降り出し、13時35分からの授業は工作に。「樹木の葉っぱについての話」と「葉っぱの葉脈写し絵」に変更になりました。5分前にはクラスの児童が迎えにきてくれました。

準備した木の葉のいっぱい入った箱を見て、「何これー!」と嬉々として運んでくれます。

授業開始です。最初に「樹木観察は春にやりましたね、覚えていますか!」の問いに、「覚えてるよ」の元気な声。

まず、広葉樹と針葉樹の違いを話し、持参した葉っぱがついた枝を手に持ち揺らしながら、「ここにある葉っぱの役割はなんですか?」の問いかけに、次々と手が上がります。

「日よけになる」「栄養をたくわえるもの」「風をかやすため」などたくさんの答えが聞けました。「光合成!」これは先生にたずねると、「6年生から教える」との返事でした。葉っぱには、見えないけれども、人間のような口があり、食べることや息もしています。太陽から光をもらい、栄養を作り、木や根にあげる役割です。

次に黑板に、広葉樹の葉のイラストを貼り付けます。単葉、切れ込みなど葉の形の違いを見せて、葉の鋸歯のギザギザ、縁無し、トゲトゲを示すとしっかり見てくれました。

続いて、今日の「葉脈写し絵」に関わる網目の葉脈(サクラ)、直線葉脈(イチヨウ)を見せ、「これは、人間の血管のように栄養分を送っている線ですよ」と伝えます。



葉っぱの話は続きます。さらに、「葉っぱを触ってみよう」と用意してきた色々な葉っぱをみんなに配ります。

やわらかい、かたい、つるつる、ざらざら、つやつやなど興味深く順にさわっていきます。

特に、ロウバイの葉のざらざらには、わーっと驚いた様子でした。そして、クスノキの匂いには反応がありました。「この匂いには、覚えがあるでしょう。タンズに入っている防虫剤ですよ」と言っても、伝わりません。今は、もう時代が違うのかもしれない。



自然工作は、葉脈写し絵をおこないました。

白い紙と、葉っぱ類(アジサイ、イチヨウ、サクラ、エノキ、カエデなど)を配りました。みんな懸命に鉛筆で擦ります。力が入りすぎたり、薄かったりなかなか上手いきません。手が疲れたような子も、何とか授業時間ギリギリに間に合いました。

いろいろな色の台紙に貼り付けて名前を書いて完成。満足してくれたのか、ハイタッチしてくれる子もいました。教室の壁に張り出して、終了です。

最後に、「次回は1月、冬の自然観察会です。また面白いよ! 楽しみにね」と予告して別れました。